

5G が切り開く医療の未来～ 遠隔診療の実務応用の紹介

井 琪(Ching, Chee)

遠伝電信株式会社 総経理

【要旨】

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の影響を受け、台湾では医療行為のモデル転換が加速しており、遠隔診療サービスはその一環である。2020 年台湾が正式に 5G の新時代を迎えた後、遠隔診療サービスで求められるリアルタイムなインタラクションと医師と患者のコミュニケーションの質は、本当の意味で満足できるようになるだろう。加えて、サービスのモバイル化により、更なる遠隔診療サービスのビジョンが見えてくるであろう。その第一歩は、「医療」から距離をなくすことである。

台湾は非常に優れた健康保険を持ち、医療資源も充実しているものの、医療資源が不足している地域は依然として多く、受診のために長距離移動を強いられる問題が続いている。しかし、台湾では少子化が進み、2026 年 65 歳以上の人口が 20.6% と超高齢化社会に突入すると予想されている。要介護人口の増加に伴い、台湾は、医療や介護のマンパワーや移動コストなど、医療環境・社会的コスト面で厳しい現実と直面することとなる。遠隔医療は台湾が必ず考えていかなければならない課題となるだろう。

遠伝電信 (Far EasTone) は 2018 年から、ビッグデータ、モノのインターネット (IoT) アプリケーション、スマート医療を自社の重点分野として力を注いできた。

2020年には5G通信、クラウドサービス、医療IoTを組み合わせた遠隔診療ソリューション「Health+」を正式にリリースした。これにより、台湾初となる遠隔診療サービスをまず台東県に導入し、100キロ離れた医療センターとの連携のもとで、台東県民に眼科、皮膚科、耳鼻咽喉科などの診療科目の外来サービスが提供された。専門医が不足する台東県ではこれまで、県民が受診のために長距離の移動を強いられ、その交通コストに長く悩まされてきたが、オフラインからオンラインへとシフトすることで解決の道が示された。例えば台東県大武郷の場合、遠隔での専門医外来により受診のために要する往復移動時間は4時間省くことができた。これに加え、遠伝電信では、在宅での遠隔医療、救急・救護相談、遠隔地でのヘルスクリーニングなどの医療分野の応用と発展を積極的に推進している。

台東県の遠隔専門医外来という実務的臨床応用事例において、5Gは、医師と患者にこれまでに前例のないインタラクティブ体験と品質をもたらすことに成功した。そうした基礎を踏まえつつ、医療IoTやAIなどのデジタル技術の発展と相まって、今後5Gは台湾の医療においてさらに多くの先端アプリケーションや革新的サービスモデルをもたらしていくはずだ。